

私たちの道

MC WAY を感じる

北海道地域創生プラットフォーム (HPR2) のパーパスを考える

1. 道内市町村訪問でのひと言

- ・経営者が変わろうとする、その一步を後押しする仕組みが大切 (釧路市/蝦名市長)
- ・学ぶ場には選択肢が必要。それが町の魅力にもつながる (中標津町/西村町長)
- ・町にはこれだけ魅力的なコンテンツがある。あとは発信力 (標津町/山口町長)
- ・資源はあれどもやる人がいない。人を育てることが必要 (弟子屈町/徳永町長)

2. HPR2 としての MUST・WILL・CAN を考える

MUST・・・上記のような地域課題解決の「実現支援」をすること

WILL・・・私たちが暮らす北海道に明るい将来をのこしたい

CAN・・・個々の専門性、みらいの仲間、AMAterrace の広がり

※パーパス = WILL・CAN・MUST が重なる部分(存在意義)

→HPR2 の存在意義=パーパスを具体化していくために必要なアクション

- ①地域課題を発見する(体感する・言語化する)→ MUST 領域の拡大
- ②北海道の将来に対して志のあるメンバーを集める→WILL 領域の拡大
- ③私たちが個としても、組織としても進化を続ける→ CAN 領域の拡大

↓

その分、重なりが増える=存在意義が明確化する

3. まとめ

- ・パーパスは考えるプロセスに価値がある→進むべき方向性(未来)が見えてくる
- ・関与するメンバーと丁寧に意見を交わしながら、パーパスを言語化していきたい